

# ゴーヘッドス 速報

Goaheads

第19号 平成25年7月15日

何も出来なかったのかあの場面

再三のチャンスに1本出ず・・・

	1	2	3	4	5	6	7	R
C	1	0	0	1	2			4
G	0	0	0	0	0			0



7/15(祝月)春季区民大会4回戦準々決勝コブラ戦が、三ツ沢公園野球場にて行われた。この日も暑さはピンピンと油断すると、暑さに負けかねない、そんな陽気でゲームは始まった。また、メンバーの気持ちも絶対に勝利するという熱い気持ちで臨んだ事には変わりない。我がチームは後攻で、達脇がマウンドにあり、プレイボールとなった。が、いつもの病気がこの日も出てしまう立ち上がり、二者連続で四球を許し、三番に犠打を決められ、一死二・三塁となる。そして、4番打者の2球目にWPで無安打で1点を失ってしまった。後続は、空三振と哲也のFPにより、初回を1点に収めたが、無安打での失点は、チームとしては、絶対にやりたくない事。しかし、その裏、我がチームにもビッグチャンスが訪れる。先頭は凡打で一死となったが、二番・三番と四球を選択し出塁、そして4番昌平が、三塁線を抜く安打で一死満塁と、絶好の得点シーン。さらにここまでの相手投手の投球内容は、ボール球が多い事から、押し出しも予感でき、且つ転がしても何かが起きる、絶好の場面である。が、初球の入りはストライク、次打球は、甘いボールでは無かったが、突っ込んだ形での打球に力は無く、イージーなレフトフライで二死となる。更に次打者も強振を心掛けるのは良いが、バットの軌道は下から上で結果レフトフライに倒れ、この絶好のチャンスを0点としてしまった。二回には、達脇が立ち直りを見せたのか、1安打を喫したが、アウトは全て三振で取る内容、そして、その裏にまたチャンスが訪れた。二死後から、達脇のバットが火を噴き、センターオーバーの安打で出塁、続く哲也が2-2からの並行カウントからバットを振り抜き、打球は二遊間安打、これを野手が若干もたつく間に達脇は三塁を目指したが、残念ながら、返球の方が早く、この日も0点となった。2回に立ち直りを見せたかに見えた達脇だが、どうもピリッとしない。この回先頭・次打者を連続四球で出塁その後盗塁も絡まり、無死一・三塁、が、立ち直るといふより、踏ん張る。今度は二者を三振と内野ゴロに斬り、二死二・三塁が、またまた次打者に四球を与え、二死満塁、が後続を三飛に斬り、この回も何とかしのいだ。ピンチの後には、チャンスが訪れるのが野球だが、多分に漏れず、そのシーンは訪れた。先頭は空三振で倒れたが、続く祐太郎が狭い三ツ沢で2ベースを放ち出塁、4番昌平も三遊間を抜き且つその後二盗も決め、場面は一死二・三塁とし、初回同様絶好の得点シーンであったが、またまた、力無く放たれた打球は、浅いレフトフライで犠飛にならず、そして後続も初回と同じく打ち上げてしまい、またまた絶好の得点シーンを0点としてしまった。さすがに、ここまで得点出来ずにいると、流れは相手チームに傾いてしまう。4回、誰が見ても判定は一塁アウトだが、線審のジャッジはセーフ。その後犠打を決められ、二死二塁と相手も1点を取りに来た。しかし、次打者へは、ストライクが先行し、2ナッシングと追い込む投球、が、3球目高く甘く入った投球を軽くセンターに運ばれ、痛い痛い2点目を失点してしまった。が、その打者が二盗を試みたが、梶原が制し、最少失点の1点に抑える。その裏の攻撃は、下位打線、出塁出来ずに最終回を迎え、最終回。先頭が内野安打で出塁、次打者には四球、そして盗塁を許す。外野フライで一死を得るが、次打者には、センター前に運ばれ一死満塁、次打者には、スクイズを警戒しすぎ結果ストロートの四球で押し出して3点目、更に次打者の初球はフラフラとライトの頭上上がった打球、これをフェンスとの距離感誤りで捕球出来ず、この間に2点目を失点し、残す攻撃1回で点差は4点と開いてしまった。最終回には、相手投手が変わり満を持してエースの登場、三人で攻撃が終了し、悲願の勝利を逸してしまった。今日のゲームを振り返ってみると、やはり、序盤の攻撃の拙さが最大の要因であろう。初回は相手投手の制球も波に乗っていない現状もあって、もう少しボールの見極めをも良かったのでは？また、叩く意識を十分に持ち打席に入ったかどうか？その為にマリンドのアップ時には、昨年から叩く意識を持とう、皆で励んだはず。また、速く飛ばすのも野球の魅力の一つであるが、場面を考えスイングするのも重要、残念ながら、次打者のスイングは、そのように映らなかった。更には、投手のゲームの作り、今期ファーストの7個の四球、7個という事は、単純に劣せず1点が入る計算、更には、走者への一瞬のケアを忘れた瞬間に盗塁を許し、進塁を許した。再三の梶原の送球がドンビチャだっただけに、非常にこのプレーも悔やまれる。更には2つの失策、誰が見てもアウトでできるが、最後は審判がアウトのコールをしなければアウトにはならない、やはり正しく捕球する事の大切さ、更には、フェンス際での捕球は、グラブの反対の手でフェンスとの距離感を図るのも基本の一つ、肝心なゲームでこれだけの内容が起きてしまえば、やはり勝利の女神からも見放されるだろう！虎視眈々と決勝進出を狙っていただけに、誰しもが悔しさを感じたに違いない。だからこそ、これからが重要だと思う。改めてキャッチボールの重要さ。打球への入り、そして捕球。マリンドのノックの際に、良く見る光景が取って終わりという練習のための練習ではダメ、これからは、フリーバッティングも含め、全てにおいてリセットをチーム一丸で行わない限り、来年も同じ事の繰り返しになるだろう。配球に関して捕手任せにするのではなく、野手全員で配球の確認するのも良いだろう。なぜなら、皆がこの悔しさからの脱却を望んでいるはずだから！最後に攻撃のキーは走塁に有る事も忘れてはならない！